

科目名 (英)	顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	福富 源和
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	7/5~7/21
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら指導する。						
目的 科目概要	目的:フェイスボウを使った半調節性咬合器の取り扱い方法その手順を理解習得し、臨床的な知識として歯冠修復や有床義歯の実習に活かす。概要:顔弓記録が歯科技工の仕事にどのように関わってくるのかを知る。顔弓記録やチェックバイトを用いて咬合器の顎路調節をし、臨床的知識を修得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェイスボウの使い方の手順が分かる。</li> <li>フェイスボウの使った咬合器の装着方法が分かる。</li> <li>前方・後方の基準点が分かる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験    <input type="checkbox"/> 口頭試験    <input type="checkbox"/> 実技試験    <input type="checkbox"/> 論文    <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布プリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/5)	口腔内模型の製作①	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>台付を行い平行模型を製作する。</li> <li>平行模型について理解する。</li> <li>台付するための石膏操作(石膏の硬さ、石膏の盛り方)を習得する。</li> </ul>
2	口腔内模型の製作②	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>トリマーの操作方法を習得する。</li> <li>模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削れるようになる。</li> <li>ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整えることができる。</li> </ul>
3	口腔内模型の製作③	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>トリマーの操作方法を習得する。</li> <li>模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削れるようになる。</li> <li>ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整えることができる。</li> </ul>
4	咬合器の0セッティング	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>半調節性咬合器の矢状顎路角15度、側方顎路角0度に合わせて製作することができる。</li> </ul>
5	フェイスボウトランスファー① 咬合器装着	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェイスボウトランスファーの使用方法について理解する。</li> <li>3人1組になってフェイスボウを使い、前方と後方の基準点について理解する。</li> <li>咬頭嵌合位でチェックバイトを採得することができる。</li> </ul>
6	フェイスボウトランスファー② 咬合器装着	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェイスボウを用いて上顎の模型を咬合器に装着することができる。</li> <li>フェイスボウを半調節性咬合器に装着方法を習得する。</li> <li>下顎の口腔内模型を咬頭嵌合位で装着することができる。</li> </ul>
7	チェックバイト①	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>前方咬合位でのチェックバイトを採得することができる。</li> </ul>
8 (7/21)	課路調節	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>前方チェックバイトを使った矢状顎路角を調整することができるようになる。</li> <li>側方課路角を計算式から算出し、咬合器の側方顎路角を調節することができる。</li> <li>咬合器に装着された上下顎模型を運動させ、咬合接触の状態を理解する。</li> </ul>

科目名 (英)	歯科理工学応用I Dental Materials Science-AdvancedI	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	6/13~7/3
講師紹介	歯科医師として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が製作に用いる材料に関する知識や特性、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科技工物製作に使用する材料について理解し、正しく取り扱える知識を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修復材料(金属・レジン・陶材)について理解できる。</li> <li>・製作に必要な材料(石膏・印象材)について理解できる。</li> <li>・材料の機械的性質について理解できる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出题する。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/13)	まとめ1『材料の性質』について	講義	多くある材料の中で、適切なものを選択するためには材料の性質について理解する。材料試験の種類や評価方法などを学び数値から材料の性質について理解する。
2	まとめ2『金属』について	講義	実習で体験した金属鑄造・加工を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解する。
3	まとめ3『印象材』について	講義	印象材には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けを行うことができるようになる。また、取り扱いを誤ると変形や寸法変化の原因となり正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解する。
4	まとめ4『石膏』について	講義	石膏の種類を用途に合わせて使い分けすることができるようになる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解する。
5	まとめ5『レジン』について①	講義	義歯床で使用するレジン(加熱重合・常温重合)を用途に合わせて使い分けすることができる。全部床義歯の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解する。
6	まとめ6『レジン』について②	講義	レジン前装冠で使用する硬質レジン(光重合)を用途に合わせて使い分けすることができる。レジン前装冠の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解する。
7	まとめ7『陶材』について①	講義	セラミック材料は成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解する。
8 (7/3)	まとめ8『陶材』について②	講義	セラミック材料は成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解する。

科目名 (英)	有床義歯技工学応用 I Denture Techniques-Advanced I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鶴飼 芳行
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	4/10~5/1
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	実習や臨床に必要となる、金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。						
科目概要	金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯が抜けてしまった口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。</li> <li>・全部床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。</li> <li>・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点~90点A (4.0)、89点~80点B (3.0)、79点~70点C (2.0)、69点~60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/10)	個人トレー	講義	個人トレーの構造、利点、製作手順を理解する。 全部床義歯用、部分床義歯用を比較し違いを理解する。
2	咬合床	講義	咬合床の構造、形態、製作手順を理解する。 全部床義歯用と部分床義歯用を比較し違いを理解する。
3	咬合採得	講義	咬合採得とは何か、実際の手順を理解する。 咬合採得後の咬合床に表されるもの、標準線を理解する。
4	リリーフ・ポストダム	講義	リリーフとは何か、リリーフすべき部位を理解する。 ポストダムとは何か、ポストダムの目的を理解する。
5	全部床の人工歯排列①	講義	全部床義歯の前歯部の排列を理解する。 臼歯部の平衡咬合を理解する。
6	全部床の人工歯排列②	講義	クリステンセン現象、ニュートラルゾーン、パウンドラインについて理解する。
7	全部床の歯肉形成	講義	歯肉形成の一般的な注意事項、各部の形態について理解する。
8 (5/1)	まとめ講義	講義	個人トレー、咬合床、咬合採得、リリーフ・ポストダム、全部床の人工歯排列、全部床の歯肉形成についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名	全部床義歯基礎実習 I	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習	有			
(英)	Basic Training of CompleteDenture Techniques I	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	5/10～6/8
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有する歯科技工士が、その豊富な経験を活かし、総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための基本的な知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列方法の理解を深め、下顎法で排列する。						
到達目標	全部床義歯の前歯部、臼歯部人工歯排列方法(下顎法)、製作上の注意点を理解する。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) プリント	事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。				
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)						
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/10)	咬合器装着[402U(トレーニング模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
2	咬合器装着[402L(トレーニング模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
3	咬合採得[蠟堤調整] 上顎模型咬合器装着[402U]	実習	咬合採得法の意味、調整法について理解する。 咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。
4	下顎模型咬合器装着[402L] 排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
5	排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
6	上顎前歯部排列	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
7	排列トレーニング[下顎前歯部]	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
8	下顎前歯部排列	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
9	上下顎前歯部排列 完成	実習	下顎法の上下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
10	排列トレーニング [下顎右側臼歯部]	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
11	下顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
12	下顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
13	上顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
14	上顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
15 (6/8)	人工歯排列 完成	実習	下顎法の人工歯排列基準、排列方法、注意点について理解する。

科目名	全部床義歯基礎実習Ⅱ		年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鴫飼 芳行
	(英)	Basic Training of CompleteDenture TechniquesⅡ	授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
			単位	1			開講期間	6/6～7/6
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有する歯科技工士が、その豊富な経験を活かし、総合的な歯科技工知識について授業を行う。							
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための知識と技術を習得する。							
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成～流蝕までの方法、注意点の理解を深め排列する。							
到達目標	・全部床義歯のフラスコ埋没～流蝕の方法、注意点を理解できる。							
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>							
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) プリント				事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)							
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)							

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/6)	歯肉形成[下顎右側臼歯部] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
2	歯肉形成[下顎左側臼歯部] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
3	歯肉形成[上顎臼歯部] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
4	歯肉形成[上顎前歯部唇側] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
5	歯肉形成[下顎前歯部唇側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
6	歯肉形成[上顎前歯部舌側] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 S字状隆起、前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
7	歯肉形成[下顎前歯部舌側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
8	歯肉形成[上下顎臼歯部舌側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部舌側の歯肉形態について理解する。
9	口蓋ヒダトレーニング	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 口蓋ヒダの形態について理解する。
10	歯肉形成 完成	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。
11	埋没準備～一次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 埋没準備～一次埋没までの方法、注意点について理解する。
12	レジン溜り～二次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 レジン溜り～二次埋没までの方法、注意点について理解する。
13	二次埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 二次埋没の方法、注意点について理解する。
14	埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。
15 (7/6)	流蝕	実習	フラスコ埋没の流蝕の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学応用 I Restorative Dentistry-Advanced I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	5/1～5/22
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップ、間接法による補綴装置の製作法についての知識を習得する。						
科目概要	製作過程、印象採得、支台築造、暫間補綴装置、硬質レジン前装冠についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>補綴物の製作順序、製作上の注意点を理解する。</li> <li>支台築造法、メタルコアやファイバーコアの製作上の注意点を理解する。</li> <li>レジン前装冠の特徴、製作上の注意点を理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/1)	製作過程(臨床ステップの概要)	講義	補綴物の製作順序、歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップについて理解する。
2	印象採得	講義	印象採得、印象材の種類と特徴、印象材の取り扱い方法について理解する。
3	研究用模型、印象用トレー	講義	研究用模型の目的、トレーの目的、トレーの種類、個人トレー、個歯トレーの製作法について理解する。
4	継続歯、支台築造-1	講義	継続歯(ポストクラウン)の特徴、根面形態、支台築造法について理解する。
5	支台築造-2	講義	いろいろな支台形態、補助的保持形態、分割コアについて理解する。
6	暫間補綴装置、レジン前装冠-1	講義	暫間補綴装置の意義と目的、種類と使用材料、製作法について理解する。レジン前装冠の特徴、レジン前装と陶材前装の比較、維持装置について理解する。
7	レジン前装冠-2	講義	レジン前装冠の窓開けの注意点、フレームのデザイン、硬質レジンについて理解する。
8	定期試験・まとめ講義	講義	臨床ステップの概要、印象採得、研究用模型、印象用トレー、継続歯、支台築造、暫間補綴装置、レジン前装冠についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名	歯冠修復応用実習 I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	富野 浩子
		授業形態	実習		有		
(英)	Advanced Training of Restorative Dentistry I	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	4/12~4/28
講師紹介	歯科技工士として歯科医院での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	臨床複製模型を用いて、様々な作業用模型の製作法、メタルコアやインレーの製作法を習得する。						
科目概要	メタルコアやインレーのワックスアップのスキルアップ、臨床的技術力を向上させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯型可撤式模型の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・前歯部支台形態、臼歯部支台形態、メタルコアの製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・インレーのワックスアップの手順、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/12)	石膏注入 [In. コア 臨床複製模型]	実習	石膏の正しい取扱い方、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解する。
2	模型製作 [In. コア 臨床複製模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解する。
3	模型製作 [In. コア 臨床複製模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成位置、方法について理解する。
4	模型製作 [In. コア 臨床複製模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 石膏分離材塗布～分割・トリミングの注意点について理解する。
5	Wax up [メタルコア]	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 前歯部支台形態、臼歯部支台形態について理解する。
6	Wax up [メタルコア]	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 メタルコアの軸面形成の注意点について理解する。
7	Wax up [メタルコア] Wax up [In. ]	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解する。
8	スプルー植立 [メタルコア] Wax up [In. ]	実習	スプルー植立の位置、植立方法の注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解する。
9	円錐台植立～埋没 [メタルコア] Wax up [In. ]	実習	円錐台植立～埋没までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解する。
10	鑄造 [メタルコア] Wax up [In. ]	実習	鑄造リングの乾燥、加熱～鑄造までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解する。
11	石膏注入 [下顎Cr.、下顎Br.]	実習	石膏の正しい取扱い方法、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解する。
12	基底面削除～ダウエルピン植立 [下顎Cr. 模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解する。
13	回転防止溝付与～二次石膏注入 [下顎Cr. 模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成～二次石膏注入までの方法、注意点について理解する。
14	模型仕上げ～分割 [下顎Cr. 模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型仕上げ～分割までの注意点について理解する。
15 (4/28)	歯型トリミング～咬合器装着 [下顎Cr. 模型]	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 歯型トリミング、咬合器装着の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅱ Advanced Training of Restorative DentistryⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛治田 忠彦
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1			開講期間	7/25～9/22
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	全部金属冠の製作法を習得する。						
科目概要	実力確認試験(模型の製作)を通して、ダウエルピン法による作業用模型製作のスキルアップ、実践力の向上をさせる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダウエルピン法による歯型可撤式模型の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・全部金属冠の製作方法、注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・下顎右側第二小臼歯、下顎右側第二大臼歯の形態的特徴を理解し、製作できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「実力確認」40点、「提出作品」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/25)	実力確認① 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法、注意点について理解する。
2	実力確認② 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成位置、方法、注意点について理解する。
3	実力確認③ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 石膏分離材塗布～二次石膏注入の方法、注意点について理解する。
4	実力確認④ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 作業用模型の仕上げ～分割・トリミングの方法、注意点について理解する。
5	実力確認⑤ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 咬合器装着の方法、注意点について理解する。
6	研磨・完成〔メタルコア〕 Wax up〔In.〕	実習	メタルコアの研磨方法、注意点について理解する。 インレーワックスアップの方法、注意点について理解する。
7	下顎右側第二小臼歯 Cr. Wax up〔主溝と外形〕	実習	下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第二小臼歯全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。
8	下顎右側第二大臼歯 Cr. Wax up〔主溝と外形〕	実習	下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第二大臼歯全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。
9	下顎右側第二小臼歯 Cr. Wax up〔副溝～完成〕	実習	下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第二大臼歯全部金属冠のワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解する。
10	下顎右側第二大臼歯 Cr. Wax up〔副溝～完成〕	実習	下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。 下顎右側第二大臼歯全部金属冠のワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解する。
11	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. Wax up〔完成〕	実習	全部金属冠のワックスアップ(盛り上げ法)の方法、注意点について理解する。
12	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr.〔マージンチェック〕	実習	マージンチェックの方法、注意点について理解する。
13	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr.〔スプルー植立～埋没〕	実習	全部金属冠のスプルー植立～埋没までの方法、注意点について理解する。
14	鑄造操作 確認(下顎Cr.)	実習	鑄造に必要な器具・器材、取り扱い方法について理解する。 鑄造操作の方法、注意点について理解する。
15 (9/22)	鑄造操作 確認(下顎Cr.)	実習	鑄造に必要な器具・器材、取り扱い方法について理解する。 鑄造操作の方法、注意点について理解する。



科目名 (英)	歯型彫刻応用 I Advanced Training of Dental Carving I	年次	2	必修科目		実務経験		科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有				
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期		
		単位	1			開講期間	4/12～7/13		
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、歯の解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら歯型彫刻の手技を指導する。								
目的	歯科技工士にとって基礎知識となる歯の形態的特徴を歯型彫刻で立体的に表現できる。								
科目概要	見本模型を観察し、荒彫りまで模刻を行い形態的特徴を理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱から上下顎第一大臼歯の模刻(外形と主溝)ができる。</li> <li>角柱から上顎第一小臼歯と下顎第二小臼歯の模刻(外形と主溝)ができる。</li> <li>上記歯種の5面デッサンをすることができる(文章を読みデッサンにすることができる)。</li> </ul>								
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>								
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】オンライン視聴による出席学生は、授業翌日に作品の提出をする必要がある。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。								
特記事項	国家試験科目(実地試験)								

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/13)	上顎右側第一小臼歯 デッサン、見て面取り	実習	上顎右側第一小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作できることを意識して製作する。
2	上顎右側第一小臼歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	上顎右側第一小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りから荒彫りの手順を確認し、製作する。外形と主溝を整え完成させる。
3	下顎右側第二小臼歯 デッサン、見て面取り	実習	下顎右側第二小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作できることを意識して製作する。
4	下顎右側第二小臼歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	下顎右側第二小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りから荒彫りの手順を確認し、製作する。外形と主溝を整え完成させる。
5	上顎左側第一大臼歯 デッサン、見て面取り	実習	上顎左側第一大臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作できることを意識して製作する。
6	上顎左側第一大臼歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	上顎左側第一大臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りから荒彫りの手順を確認し、製作する。外形と主溝を整え完成させる。
7	下顎左側第一大臼歯 デッサン、見て面取り	実習	下顎左側第一大臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作できることを意識して製作する。
8	下顎左側第一大臼歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	下顎左側第一大臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りから荒彫りの手順を確認し、製作する。外形と主溝を整え完成させる。
9	下顎右側第一小臼歯 デッサン、見て面取り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作できることを意識して製作する。
10	下顎右側第一小臼歯 デッサン、見て面取り～荒彫り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴をデッサンを通じて確認する。面取りから荒彫りの手順を確認し、製作する。外形と主溝を整え完成させる。
11	大臼歯 角柱から見て面取り～荒彫り	実習	製作する歯の形態的特徴を理解し、角柱から面取り～荒彫り、外形と主溝までの仕上げ彫り(模刻)ができるようになる。
12	小臼歯 角柱から見て面取り～荒彫り	実習	製作する歯の形態的特徴を理解し、角柱から面取り～荒彫り、外形と主溝までの仕上げ彫り(模刻)ができるようになる。
13	大臼歯または小臼歯 角柱から見て面取り～荒彫り	実習	製作する歯の形態的特徴を理解し、角柱から面取り～荒彫り、外形と主溝までの仕上げ彫り(模刻)ができるようになる。
14	作品評価日(まとめ)	実習	指定歯種について模刻を行う。
15 (7/13)	作品評価日(まとめ)	実習	指定歯種について模刻を行う。

科目名 (英)	キャリアデザイン II Career Design II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	4/10~6/19
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、キャリア形成について豊富な事例をもとに学生が積極的に学べる授業を行う。2019年度インタラクティブティーチング（東京大学大学総合研究センター）講座修了						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解する。						
科目概要	「歯科医療界の動向について」を大きなテーマに、歯科医療の現場で活躍する卒業生や企業の採用担当者を通じて諸事例から将来像を明確にし目標設定する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科医療界の動向について、その概略を理解する。</li> <li>・ 歯科医療界の動向を踏まえた、自らの将来の目標を立てることができる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、レポートで行う。講義毎に課すレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験    <input type="checkbox"/> 口頭試験    <input type="checkbox"/> 実技試験    <input type="checkbox"/> 論文    <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】講義毎に課すレポートで授業の振り返りを行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/10)	オリエンテーション	講義	年間授業紹介とスケジュールの確認を行う。 入学時に設定した目標を振り返り、今年度の目標を設定する。
2	歯科技工の仕事に関する法律 1	講義	歯科技工士法をはじめとした業務に関する法律について、その概略を理解する。
3	歯科技工の仕事に関する法律 2	講義	歯科技工に関連した法律についてその概略を知る。歯科医療に従事する際に必要な倫理について理解する。
4	歯科技工の仕事に関する法律 3	講義	歯科技工士法をはじめとした業務と作業環境に関する法律について、その概略を理解する。
5	インターンシップの準備 1	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
6	インターンシップの準備 2	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
7	インターンシップの準備 3	講義	職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについての講演を通じて歯科技工士としての将来像を明確にすることができるようになる。
8 (6/19)	インターンシップの準備 4	講義	この授業の総括及びインターンシップ先の特色に応じた準備を行う。

科目名 (英)	歯の解剖学応用 I Dental Anatomy-Advanced I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	7/3~7/18
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら指導する。						
目的	歯科技工士として必要な口腔に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	頭部の骨や筋肉、顎関節、口腔内の器官(舌、唾液腺)について基本的な知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭部の骨(頭蓋骨)の構造を説明することができるようになる。</li> <li>・頭蓋骨の中で、歯科技工士にとって重要な咬合を構成する下顎骨、上顎骨の重要部分名称を説明することができるようになる。</li> <li>・下顎を動かす筋である咀嚼筋、舌骨上筋の種類とその作用、それぞれの支配神経を説明することができるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/13)	頭蓋骨・下顎骨	講義	頭部の筋を理解する上で必要となる、頭蓋骨の分類と下顎骨の重要な部分名称を理解する。
2	上顎骨・硬口蓋	講義	上顎骨の重要部分名称を理解する。また、義歯が設計される硬口蓋の骨構成(上顎骨と口蓋骨)を理解する。
3	側頭骨・蝶形骨	講義	頭部の筋や顎関節を理解する上で必要となる、側頭骨と蝶形骨について理解する。
4	深頭筋(咀嚼筋)	講義	下顎の動きを理解する上で重要である咀嚼筋の種類と作用について理解する。
5	舌骨上筋	講義	下顎の動きを理解する上で重要である舌骨上筋種類と作用について理解する。
6	筋の作用・付着部位	講義	咀嚼筋・舌骨上筋の作用を理解し、下顎運動を理解する。 咀嚼筋・舌骨上筋の付着部位(下顎骨)を理解する。
7	浅頭筋(顔面筋)	講義	深頭筋違いを明確にし、浅頭筋(顔面筋)について理解する。
8 (7/18)	まとめ講義	講義	頭蓋骨・下顎骨、上顎骨・硬口蓋、側頭骨・蝶形骨、深頭筋(咀嚼筋)、舌骨上筋、筋の作用・付着部位、浅頭筋(顔面筋)についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science-Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1		開講期間	5/22～6/12	
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて、顎口腔機能学について授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な咬合・咬合器に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	咬合・咬合器に関する基本的な知識について、講義やグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯列にみられる形態と咬合に関する平面について説明できるようになる。</li> <li>・咬合器の分類とその特徴について、半調節性咬合器の使用手順と調節方法について説明できるようになる。</li> <li>・咬頭嵌合位での咬合接触、偏心位での咬合接触について説明できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/22)	歯列にみられる形態と咬合に関する平面について	講義	正常な顎口腔系で観察できる歯列の形態と咬合に関する平面を習得する。
2	咬合器の分類とその特徴について	講義	歯科技工操作を行うにあたって使用する咬合器の分類、機構とそれぞれの特徴を習得する。
3	半調節性咬合器について	講義	1年次に行なったフェイスボウトランスファーの実習を復習し、半調節性咬合器の使用手順と調節方法について習得する。
4	歯の接触様式について	講義	咬頭嵌合位での咬合接触について理解し、機能咬頭と非機能咬頭の役割、被蓋について習得する。
5	咬頭嵌合位での咬合接触について	講義	咬頭嵌合位での咬合接触について、咬頭対辺縁隆線と咬頭対窩の2つのタイプについて習得する。
6	偏心位での咬合接触について	講義	偏心位での咬合接触(咬合様式)の犬歯誘導咬合とグループファンクションの違いについて習得する。
7	偏心位での咬合接触について	講義	偏心位での咬合接触(咬合様式)の両側性平衡咬合と、前回までの咬合様式についてそれぞれの特徴を習得する。
8 (6/12)	まとめ講義	講義	歯列にみられる形態と咬合に関する平面について、咬合器の分類とその特徴について、半調節性咬合器について、歯の接触様式について、咬頭嵌合位での咬合接触について、偏心位での咬合接触についてまとめ講義を通じて理解を深める。

科目名 (英)	インターンシップ I Internship I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	120	授業回数	60	開講区分	前期
		単位	4			開講期間	6/19～9/21
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、キャリア形成について豊富な事例をもとに学生が積極的に学べる授業を行う。2019年度インタラクティブティーチング(東京大学大学総合研究センター)講座修了						
目的	実際の歯科臨床現場で学ぶことを通じて、歯科技工士の業務内容への理解を深めることを目的とする。						
科目概要	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験先にて使用する器具機材を安全に取り扱うことができる。</li> <li>・就業体験先において挨拶をはじめとした「身構え」「気構え」「心構え」を身につけることができる。</li> <li>・設定した目標に対して、記録し、結果の検証と改善をすることができる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】臨床実習ノートに目標を記入する。 【事後学習】わからなかった語句や内容は教科書などで調べ、翌日の実習につなげることが必要である。		
参考図書	なし						
特記事項	実習マニュアル						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/19)	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
2	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
3	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
4	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
5	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
6	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
7	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
8	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
9	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
10	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
11	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
12	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
13	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
14	学校にて総括(59回目)	実習	就業体験を振り返り、学科内で情報共有する。
15 (9/21)	学校にて総括(60回目)	実習	就業体験を振り返り、学科内で情報共有する。

科目名	デジタル歯牙技工基礎 I	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	鍛冶田 忠彦
		授業形態	実習		有		
(英)	Digital Dental Technology-Basic II	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	5/17~6/23
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	インターンシップ実習に向けて、CAD/CAMの基本的な一連の操作を一人で行うことができることを目標とする。						
科目概要	最先端のデジタル歯科技工技術について、臨床現場で導入されているシステムを用いたCADデザイン及びCAMの基本操作ができることを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模型をスキャナに読み込ませることができる。</li> <li>・基本的なCAD操作をすることができる。</li> <li>・基本的なCAM操作をすることができる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。</p> <p>( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	CAD技工のヒント 医歯薬出版			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/17)	Digital Dentistryの歴史 1	講義	動画を視聴し歯科におけるdigitalの歴史を理解する。
2	Digital Dentistryの歴史 2	講義	動画を視聴し歯科におけるdigitalの歴史を理解する。
3	Scanに適した作業模型の作り方	実習	Scanに適した作業模型の作り方や、歯型トリミング方法を理解する。
4	Scanの方法 1	講義	実際に学校内の機器を使用して行ったScanの方法を理解する。
5	Scanの方法 2	実習	実際に学校内の機器を使用して行ったScanの方法を理解する。
6	模型のScan 1	実習	実際に作成した石膏模型を使用し、チームでScan作業を行いデータを保存できるようになる。
7	模型のScan 2	実習	実際に作成した石膏模型を使用し、チームでScan作業を行いデータを保存できるようになる。
8	小臼歯クラウンのデザイン 1	実習	作成したデータを使用して、各自が小臼歯クラウンのデザインを行うことができる。(チームの中でパラメータの数値を変えてその違いを知る)
9	ミリングを学ぶ	講義	デザインされたデータからのネステイングや実際の切削過程を理解する。
10	小臼歯クラウンのデザイン 2	実習	作成したデータを使用して、各自が小臼歯クラウンのデザインを行うことができる。(チームの中でパラメータの数値を変えてその違いを知る)
11	ミリング後のクラウンの検証	実習	実際にミリングされたワックスクラウンを使用し、チームで検証する。
12	模型のScanの確認試験 1 授業レポート作成	実習	模型のScan～データ保存までの過程を個人で行えるかを確認する。ミリングしたワックスクラウンをチームで検証した結果を各自がレポートにまとめる。
13	模型のScanの確認試験 2 授業レポート作成	実習	模型のScan～データ保存までの過程を個人で行えるかを確認する。ミリングしたワックスクラウンをチームで検証した結果を各自がレポートにまとめる。
14	Digital Labo見学及び演習	演習	最先端のDigital Labo に訪問し、レクチャーを受けた後、実際に機器に触れることでデジタル技工のいまを理解する。
15 (6/23)	Digital Labo見学及び演習	演習	最先端のDigital Labo に訪問し、レクチャーを受けた後、実際に機器に触れることでデジタル技工のいまを理解する。

科目名 (英)	歯科理工学応用 II Dental Materials Science-AdvancedII	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	11/13～12/4
講師紹介	歯科医師として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が製作に用いる材料に関する知識や特性、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科精密鑄造に用いる鑄造用合金や融解熱源、鑄造機の種類と所要性質を理解する。また精度の良い鑄造体を得るための埋没操作、鑄型の加熱について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑄造欠陥の原因と予防方法について理解できる。</li> <li>・歯科鑄造について理解できる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験    □ 口頭試験    □ 実技試験    □ 論文    □ レポート</p>						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	まとめ9『合金の融解、鑄造機』	講義	歯科用金属は、貴金属合金から非貴金属合金に至るまで多種あり、融解方法も鑄造方法もそれぞれに異なる。融解方法や器械の取り扱いを誤ると、口腔内で生体に悪影響を及ぼす可能性も高まる。実習で使用していない方法も含め理解を深める。
2	まとめ10『埋没材』	講義	鑄造時に使用する埋没材は、使用金属により成分も利用温度も大きく違う。適合の良い鑄造体を得るためには特性を理解し使い分けしていく必要がある。1年次からの鑄造体験を踏まえ取り扱いについて理解を深める。
3	まとめ11『鑄造欠陥』①	講義	鑄造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鑄造体験を踏まえ、鑄造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
4	まとめ12『鑄造欠陥』①	講義	鑄造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鑄造体験を踏まえ、鑄造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
5	まとめ12『鑄造欠陥』①	講義	鑄造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鑄造体験を踏まえ、鑄造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
6	まとめ13『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正(調整)～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
7	まとめ14『切削・研削・研磨』①	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正(調整)～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
8 (9/14)	まとめ②	講義	安全で精度の良い歯科技工物を製作するために、製作工程で使用するすべての材料について理解し取り扱うことが必須である。ここでは、製作工程を踏まえ関連させながら総合的に理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学応用Ⅱ Denture Techniques-AdvancedⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	講義		有	開講区分	後期
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	1/15～2/5
講師紹介	歯科技工士として大学付属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
科目概要	金属床部分床義歯の製作に関する諸理論について学ぶ。関連事項の知識を振り返り、総合的な復習を行うことを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前製作したレジン床と比較した、金属床義歯の特徴が理解する。</li> <li>・実習授業では製作しない、オーバーデンチャー、ノンクラスプデンチャー、テレスコープ義歯、オルタードキャストについて理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (1/15)	全部床のフラスコ埋没～重合	講義	全部床義歯のフラスコ埋没の各方法、注意事項について理解する。
2	咬合器再装着～削合①	講義	咬合器再装着の各方法、選択削合、自動削合の概略を理解する。
3	削合②	講義	選択削合、自動削合の方法、人工歯の形態修正について理解する。
4	ランドマーク	講義	上下無歯顎模型上に見られるランドマークの名称とその活用方法、注意事項について理解する。
5	形態的基礎知識、機能的基礎知識、審美的基礎知識	講義	抜歯後の状態、義歯装着による変化、義歯の審美的な変化の回復について理解する。
6	各基準平面・維持・安定、吸収	講義	カンベル平面、咬合平面、フランクフルト平面、下顎三角について理解する。 歯の欠損後の顎堤の吸収について理解する。 全部床義歯の維持、安定について理解する。
7	義歯製作の流れ/咬合採得	講義	全部床義歯製作の工程を振り返り理解する。 咬合採得で実際に行われている方法を理解する。
8 (2/5)	まとめ講義	講義	全部床のフラスコ埋没～重合、咬合器再装着～削合、ランドマーク、形態的基礎知識、機能的基礎知識、審美的基礎知識、各基準平面・維持・安定、吸収、義歯製作の流れ/咬合採得についてまとめ講義を通じて理解を深める。



科目名 (英)	全部床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of CompleteDenture TechniquesⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鵜飼 芳行
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	12/13～2/15
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、全部床義歯製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための理論と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の流蠟～研磨・完成までの方法注意点の理解を深め排列する。						
到達目標	・全部床義歯の重合～掘り出し、削合、研磨の方法、注意点を理解できる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「確認試験」40点、「作品提出」40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出日は開講時に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版 プリント)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.)						
特記事項	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/13)	流蠟 完了	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。
2	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
3	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
4	掘り出し～咬合器再装着	実習	掘り出しの方法、注意点について理解する。 咬合器再装着の方法、注意点について理解する。
5	削 合 〔選択削合～自動削合〕	実習	選択削合の方法、注意点について理解する。 自動削合の方法、注意点について理解する。
6	自動削合～人工歯形態修正	実習	自動削合の方法、注意点について理解する。 人工歯形態修正の方法、注意点について理解する。
7	粗研磨 〔義歯床床縁の調整〕	実習	粗研磨の方法、注意点について理解する。 義歯床床縁の調整方法、注意点について理解する。
8	中研磨	実習	中研磨の方法、注意点について理解する。
9	仕上げ研磨 〔レーズ研磨〕	実習	仕上げ研磨の方法、注意点について理解する。 レーズの取り扱い方法、注意点について理解する。
10	研磨 完成	実習	研磨の方法、注意点について理解する。 全部床義歯の研磨面の形態について理解する。
11	実技トレーニング 準備	実習	全部床義歯の蠟堤の調整方法、注意点について理解する。
12	実技トレーニング FD排列①	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
13	実技トレーニング FD排列①振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。
14	実技トレーニング FD排列②	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
15 (2/15)	実技トレーニング FD排列②振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学応用Ⅱ Restorative Dentistry-AdvancedⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	10/2～10/23
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯を喪失した場合の補綴装置であるブリッジやインプラントについての知識を習得する。						
科目概要	ブリッジの概要と種類、ポンティック、連結法、インプラントについての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリッジの概要と種類、製作順序、製作上の注意点を理解する。</li> <li>・ポンティックの要件と構造、種類と形態、製作上の注意点を理解する。</li> <li>・インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類を理解する。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。筆記試験を100点満点として評価する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)国家試験科目(学説試験)						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ブリッジの概要と種類-1	講義	ブリッジの特徴、構成について理解する。
2	ブリッジの概要と種類-2	講義	固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジの特徴について理解する。
3	ポンティック-1	講義	基底面形態によるポンティックの分類について理解する。
4	ポンティック-2	講義	自浄作用によるポンティックの分類、ポンティックの咬合面形態や負担軽減対策について理解する。
5	連結-1	講義	連結部の要件、連結方法の種類、ワンピースキャスト法、鑑付け法について理解する。
6	連結-2	講義	支台装置とポンティックの固定方法、鑑付け法と比較した一塊鑄造法の利点・欠点について理解する。
7	インプラント	講義	インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類などについて理解する。
8	まとめ	講義	ブリッジ、インプラントについてまとめ講義を行い、理解を深める。

科目名	歯冠修復応用実習Ⅲ			年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛治田 忠彦
(英)	Advanced Training of Restorative DentistryⅢ			授業形態	実習		有	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科午後部			時間数	30	授業回数	15	開講期間	10/6～12/1
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。								
目的	ブリッジの製作法を習得する。								
科目概要	実力確認試験(ワックスアップ)を通して、多数歯のワックスアップの考え方やポンティックの基底部形態についての理解を深める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリッジの製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・ポンティックの基底部形態を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・多数歯のワックスアップの考え方、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> </ul>								
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「実力確認」40点、「提出作品」40点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート								
教科書	新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。				
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)								
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)								

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/6)	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [適合チェック～接触点調整]	実習	全部金属冠の適合チェックの方法、注意点について理解する。
2	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [接触点調整～]	実習	全部金属冠の隣接面接触点の調整方法、注意点について理解する。
3	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [粗研磨]	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
4	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [粗研磨]	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
5	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [仕上げ研磨]	実習	金属研磨(仕上げ研磨)の方法、注意点について理解する。
6	下顎右側第二小臼歯・下顎右側第二大臼歯 Cr. [研磨 完成]	実習	全部金属冠の研磨の方法、注意点について理解する。 金属研磨に使用する器具・器材、取り扱い方法、注意点について理解する。
7	実力確認① [Wax up (下顎Br. )]	実習	下顎右側第二小臼歯 全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。
8	実力確認② [Wax up (下顎Br. )]	実習	下顎右側第二大臼歯 全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。
9	実力確認③ [Wax up (下顎Br. )]	実習	ポンティック部のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。 下顎右側第一大臼歯の特徴について理解する。
10	実力確認④ [Wax up (下顎Br. )]	実習	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. ワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解する。
11	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. Wax up[修正]	実習	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. ワックスアップ(主溝と外形)の修正箇所について理解する。
12	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. Wax up[修正]	実習	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. ワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解する。
13	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. Wax up[ポンティック 調整]	実習	リッジラップ型ポンティックの形態について理解する。 鞍状型からリッジラップ型ポンティックへの修正方法について理解する。
14	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. Wax up[ポンティック窓開け]	実習	リッジラップ型ポンティックの形態について理解する。 ポンティックの窓開け方法、注意点について理解する。
15 (12/1)	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. Wax up[修正 完了]	実習	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. ワックスアップの方法、注意点について理解を深めることができる。

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅳ Advanced Training of Restorative DentistryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	12/20～2/14
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	ブリッジの製作法を習得する。						
科目概要	ブリッジ連結部の考え方や鑲付け法に関する理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリッジの製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・ブリッジ連結部の形態、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> <li>・鑲付けの方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として、「提出作品」80点、「レポート評価」20点の100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 参考図書 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/20)	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [マージンチェック]	実習	マージンチェックの方法、注意点について理解する。
2	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [スプルー植立]	実習	スプルー植立の方法、注意点について理解する。 プラスチックスプルーの使用法、注意点について理解する。
3	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [スプルー植立～埋没]	実習	スプルー植立の方法、注意点について理解する。 チルメタル(冷し金)の目的、使用方法、注意点について理解する。
4	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [スプルー植立～埋没]	実習	スプルー植立～埋没までの方法、注意点について理解する。
5	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [埋没 完了]	実習	埋没の方法、注意点について理解する。
6	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [鑄 造]	実習	鑄造の方法、注意点について理解する。
7	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [鑄造～粗研磨]	実習	金属研磨の方法(粗研磨)、注意点について理解する。
8	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [鑲付け用 埋没]	実習	鑲付け用埋没の方法、注意点について理解する。 石英埋没材の特徴、取り扱い方法について理解する。
9	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [流蠟～鑲付け]	実習	流蠟の方法、注意点について理解する。 鑲付けの方法、注意点を理解する。
10	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [適合チェック～研磨] 模型調整(MB特別実習)	実習	ブリッジの適合チェックの方法、注意点について理解する。
11	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [研 磨] 模型調整(MB特別実習)	実習	ブリッジの研磨方法、注意点について理解する。
12	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [メタル調整] 模型調整(MB特別実習)	実習	レジン前装ポンティックのメタル調整の方法、注意点について理解する。
13	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [レジンワーク]	実習	硬質レジンの特徴、取り扱い方法、注意点について理解する。
14	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [形態修正]	実習	硬質レジンの形態修正の方法、注意点について理解する。
15 (2/14)	下顎右側第二小臼歯-下顎右側第二大臼歯Br. [研磨 完成]	実習	硬質レジンの研磨方法、注意点について理解する。 硬質レジンの研磨に必要な器具・器材について理解する。

科目名 (英)	矯正歯科技工学各論 Particular Theories of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	12/5～2/3
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正歯科技工学について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	各種矯正装置を製作するために、役割や製作順序、歯や顎をどのように移動させるかについての知識、技術を習得する。						
科目概要	各種矯正装置の名称や適応、製作手順についての知識、技術を理解する。						
到達目標	・動的矯正装置、静的矯正装置の名称、適応、製作手順を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング						
特記事項	配布資料「矯正の達人」(オリジナル) 国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	特別講義① 矯正装置－1	講義	各動的矯正装置についてその形態、適応、製作上の注意点等について理解する。
2	Step7 矯正用口腔模型の製作 Step8 矯正装置の必要条件と分類	講義	Step7「矯正用口腔模型の製作」について理解を深める。 Step8「矯正装置の必要条件と分類」について理解を深める。
3	Step9-1 矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置～6. 咬合斜面板	講義	Step9-1「矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置」 ～「矯正装置の製作法 6. 咬合斜面板」について理解を深める。
4	特別講義② 矯正装置－2	講義	各静的矯正装置についてその形態、適応、製作上の注意点等について理解する。
5	Step9-2 矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置 ～15. スライディングプレート	講義	Step9-2「矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置」 ～「矯正装置の製作法 15. スライディングプレート」について理解を深める。
6	Step10 保定装置(静的矯正装置)	講義	Step10「保定装置(静的矯正装置)」について理解を深める。
7	各論 まとめ	講義	Step7「矯正用口腔模型の製作」、Step8「矯正装置の必要条件と分類」、 Step9「矯正装置の製作法」、Step10「保定装置(静的矯正装置)」 について復習する。
8	復習	講義	1回～6回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	実習	有			
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	12/20～2/14
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正歯科技工製作について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	矯正装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や製作法、矯正治療の流れを習得する。						
科目概要	矯正用線の屈曲、舌側弧線装置や保定装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や矯正装置についての理解を深める。						
到達目標	・舌側弧線装置、リテーナー(保定装置)の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できるようになる。						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。  ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/20)	舌側弧線装置〔復習〕	実習	舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について理解する。
2	リテーナー〔復習〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について理解する。
3	STロック鑑付け 上顎右側第一大臼歯〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作できるようになる。
4	STロック鑑付け 上顎左側第一大臼歯〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作できるようになる。
5	設計～脚部の屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	舌側弧線装置の設計について理解する。 脚部の屈曲方法、注意点について理解し製作できるようになる。
6	主線の屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	主線の屈曲方法、注意点について理解する。
7	主線と脚部の鑑付け〔舌側弧線装置〕	実習	主線と脚部の鑑付け方法、注意点について理解する。
8	自在鑑付け 練習〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の種類と作用方向について理解し製作できるようになる。
9	補助弾線鑑付け～屈曲〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の屈曲方法、注意点について理解し製作できるようになる。
10	研磨 完成〔舌側弧線装置〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
11	ふりかけ前準備〔リテーナー〕	実習	レジンふりかけの前準備の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
12	ふりかけ〔リテーナー〕	実習	ふりかけ法の手順、注意点について理解し製作できるようになる。
13	形態修正〔リテーナー〕	実習	形態修正の手順、注意点について理解し製作できるようになる。
14	研磨 完成〔リテーナー〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作できるようになる。
15 (2/14)	振り返り〔リテーナー & 舌側弧線装置〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について確認し、理解を深める。 舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について確認し、理解を深める。

科目名 (英)	歯型彫刻応用Ⅱ Advanced Training of Dental CarvingⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	10/16～2/19
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育工学の各種手法やICTを積極的に活用しながら指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体的に表現する。						
科目概要	上下顎小臼歯の面取り～仕上げ彫りが見本模型やプリントを見て正確にできるようになる。 見本模型を見ずにFDI 11・FDI 13・FDI 14の面取りから荒彫りまで行い形態的特徴を理解する。						
到達目標	・FDI 11・FDI 13の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないでできるようになる。 ・FDI 14・FDI 44の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないでできるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実習試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/16)	下顎右側第一小臼歯 デッサン、見て面取り①	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを描けるようになる。面取りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作できるようになる。
2	下顎右側第一小臼歯 面取り②～荒彫り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴を理解して面取りを繰り返し練習し、荒彫りまで進める。
3	下顎右側第一小臼歯 荒彫り～仕上げ彫り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴を理解し、荒彫り～仕上げ彫りができるようになる。
4	下顎右側第二小臼歯 デッサン、見て面取り①	実習	下顎右側第二小臼歯の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを描けるようになる。面取りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作できるようになる。
5	下顎右側第二小臼歯 面取り②～荒彫り	実習	下顎右側第二小臼歯の形態的特徴を理解して面取りを繰り返し練習し、荒彫りまで進める。
6	下顎右側第二小臼歯 荒彫り～仕上げ彫り	実習	下顎右側第二小臼歯の形態的特徴を理解し、荒彫り～仕上げ彫りができるようになる。
7	下顎右側第一小臼歯 見て面取り～荒彫り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴、面取りの手順を見本模型やプリントを見て覚える。
8	下顎右側第一小臼歯 見ないで面取り～荒彫り	実習	下顎右側第一小臼歯の形態的特徴、面取りの手順を見本模型やプリントを見て覚えながら荒彫りまで進める。
9	上顎右側第一小臼歯 見て面取り	実習	上顎右側第一小臼歯の形態的特徴、面取りの手順を見本模型やプリントを見て覚える。
10	上顎右側第一小臼歯 見ないで面取り～荒彫り	実習	上顎右側第一小臼歯の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作できるようになる。
11	上顎左側中切歯 見て面取り～荒彫り	実習	上顎左側中切歯の形態的特徴、面取りの手順を見本模型やプリントを見て覚えながら荒彫りまで進める。
12	1、2年生合同授業	実習	1年生に彫刻の見本を示し、1年生の製作に助言することを通じて、成長のストレッチ体験および今後の課題について設定する。あ
13	上顎右側犬歯 見て面取り～荒彫り	実習	上顎右側犬歯の形態的特徴、面取りの手順を見本模型やプリントを見て覚えながら荒彫りまで進める。
14	上顎右側犬歯 見ないで面取り～荒彫り	実習	上顎右側犬歯の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作できるようになる。
15 (2/19)	上顎右側犬歯 見ないで面取り・見て荒彫り	実習	上顎右側犬歯の面取りを見本模型やプリントを見ないで製作できるようになる。 また模型を見て荒彫り以上ができるようになる。

科目名 (英)	歯の解剖学応用Ⅱ Dental Anatomy-Advanced Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	10/23～11/13
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、解剖学の知識や技術を臨床事例を交えながら、教育学の各種手法やICTを積極的に活用しながら指導する。						
目的	歯科技工士として必要な口腔に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	顎関節、口腔内の器官(舌、唾液腺)、歯の発生について基本的な知識を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顎関節の構成と特徴、その機能を理解できる。</li> <li>・口腔の構造、舌の構造(舌乳頭、舌筋)と役割、唾液腺の種類と特徴を理解できる。</li> <li>・歯、歯周組織の発生由来と歯冠の発生、歯根の発生の概要を理解できる。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/23)	顎関節	講義	顎関節の構成と特徴、顎関節に関与する筋と下顎運動について理解する。
2	口腔・舌乳頭	講義	口腔領域の分類(口腔前庭と固有口腔)を理解する。舌の各部名称と舌表面にみられる特殊粘膜である舌乳頭の種類と特徴を理解する。
3	舌筋	講義	筋肉の塊である舌を構成する内舌筋と舌の位置を変える外舌筋の種類と働き、支配神経について理解する。
4	唾液腺①	講義	唾液腺の種類と特徴について理解する。
5	唾液腺②	講義	唾液腺のそれぞれの存在部位と開口部位について理解する。
6	歯の発生①	講義	歯、歯周組織の発生由来を理解する。
7	歯の発生②	講義	歯冠の発生、歯根の発生の概要を理解する。
8 (11/13)	まとめ講義	講義	顎関節、口腔・舌、舌筋、唾液腺、発生由来、歯の発生についてまとめ講義を通じて理解を深める。



科目名 (英)	矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	12/4~1/15
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有した経験豊富な教員が、矯正歯科技工学について基本的な知識と技術を身につけられるよう授業を行う。						
目的	矯正治療の概要および正常咬合と不正咬合について、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的な手技を習得する。						
科目概要	正常咬合、不正咬合、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科技工の手技について理解を深める。						
到達目標	・矯正治療と矯正技工の流れを理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版) プリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工・歯科技工学実習トレーニング						
特記事項	配布資料「矯正の達人」(オリジナル) 国家試験科目(学説試験)						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/4)	特別講義① 正常咬合と不正咬合	講義	矯正治療の意義と目的、正常咬合と不正咬合について理解する。
2	Step1 矯正歯科治療とは Step2 矯正歯科技工の意義と目的 Step3-1 正常咬合	講義	Step1の練習問題を解き、「矯正歯科治療とは」について理解を深める。 Step2の練習問題を解き、「矯正歯科技工の意義と目的」について理解を深める。 Step3-1の練習問題を解き、「正常咬合」について理解を深める。
3	Step3-2 不正咬合(咬合異常)	講義	Step3-2の練習問題を解き、「不正咬合(咬合異常)」について理解を深める。
4	特別講義② 矯正治療の進め方	講義	矯正治療の進め方(診査・検査・動的治療・静的治療)について理解する。
5	Step4 矯正歯科治療の進め方	講義	Step4の練習問題を解き、「矯正歯科治療の進め方」について理解を深める。
6	Step5 矯正歯科技工用器具と器械、材料 Step6 矯正歯科技工の手技	講義	Step5の練習問題を解き、「矯正歯科技工用器具と器械、材料」について理解を深める。 Step6の練習問題を解き、「矯正歯科技工の手技」について理解を深める。
7	総論 まとめ	講義	Step1「矯正歯科治療とは」、Step2「矯正歯科技工の意義と目的」、Step3「正常咬合と不正咬合(咬合異常)」、Step4「矯正歯科治療の進め方」、Step5「矯正歯科技工用器具と器械、材料」、Step6「矯正歯科技工の手技」について復習する。
8 (1/15)	復習	講義	1回～6回までに学習した内容を、今までの小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	総合歯科技工学 I Dental Technology I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科午後部	単位	1			開講期間	10/2～2/21
講師紹介	歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、学生が積極的に学べる授業を行う。2019年度インタラクティブティーチング(東京大学大学総合研究センター)講座修了						
目的	主要科目において総合的な基礎力を確認し、知識を深める						
科目概要	主要科目においてまとめ講義を通じて総合的な基礎力を確認し、知識を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要科目において各自の苦手部分を明確にし理解する。</li> <li>・苦手部分を再確認することで、基礎力を深める。</li> </ul>						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、筆記試験を100点満点として評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	解説時に教科書、資料を必ず持参すること。						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/2)	有床義歯技工学 まとめ講義	講義	有床義歯技工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
2	歯冠修復技工学 まとめ講義	講義	歯冠修復技工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
3	歯科理工学 まとめ講義	講義	歯科理工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
4	歯の解剖学 まとめ講義	講義	歯の解剖学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
5	有床義歯技工学 まとめ講義	講義	有床義歯技工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
6	歯冠修復技工学 まとめ講義	講義	歯冠修復技工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
7	歯科理工学 まとめ講義	講義	歯科理工学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。
8 (2/21)	歯の解剖学 まとめ講義	講義	歯の解剖学のまとめ講義を通じて、疑問点を明確にして理解を深める。

科目名 (英)	インターンシップⅡ Internship II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清水 典子
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	120	授業回数	60	開講区分	後期
		単位	4			開講期間	10/3～12/13
講師紹介	本校キャリアセンター協力のもと、歯科技工士として歯科医院、歯科技工所での豊富な実務経験を有する教員が、キャリア形成について豊富な事例をもとに学生が積極的に学べる授業を行う。2019年度インタラクティブティーチング(東京大学大学総合研究センター)講座修了						
目的	実際の歯科臨床現場で学ぶことを通じて、歯科技工士の業務内容への理解を深めることを目的とする。						
科目概要	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験先にて使用する器具機材を安全に取り扱うことができる。</li> <li>・就業体験先において挨拶をはじめとした「身構え」「気構え」「心構え」を身につけることができる。</li> <li>・設定した目標に対して、記録し、結果の検証と改善をすることができる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	【事前学習】臨床実習ノートに目標を記入する。 【事後学習】わからなかった語句や内容は教科書などで調べ、翌日の実習につなげることが必要である。		
参考図書	なし						
特記事項	実習マニュアル						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/3)	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
2	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
3	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
4	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
5	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
6	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
7	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
8	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
9	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
10	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
11	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
12	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
13	各就業体験先	実習	各就業体験先で、歯科技工業務を理解し実践する。
14	学校にて総括(59回目)	実習	就業体験を振り返り、学科内で情報共有する。
15 (12/13)	学校にて総括(60回目)	実習	就業体験を振り返り、学科内で情報共有する。

科目名 (英)	デジタル歯科技工基礎Ⅱ Digital Dental Technology-Basic Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	鍛治田 忠彦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科午後部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1			開講期間	1/11～2/29
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、新東京歯科技工学校同窓会技新会会長としての知見の広さも踏まえて、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	各種CAD/CAMシステムについてしくみや操作方法を理解できることを目標とする。						
科目概要	最先端のデジタル歯科技工技術について、臨床現場で導入されているシステムを用いた各種CADデザインについて理解することを目標とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキャナを取り扱うことができる。</li> <li>・基本的なCAD操作をすることができる。</li> <li>・基本的なCAM操作をすることができる。</li> </ul>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。評価は、実技試験として「提出作品」を100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	CAD技工のヒント 医歯薬出版			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスおよび教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントの復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	配布資料 実習プリント(オリジナル) 国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/17)	IOSについて	講義	IOSシステムの種類や特徴について理解する。
2	IOS～スキャン、設計の手順	講義	IOSシステムごとの手順や操作上の注意などについて理解する。
3	IOSによる口腔内撮影	実習	IOSシステムごとの手順や操作上の注意などについて理解する。
4	IOSによる口腔内撮影	実習	IOSシステムごとの手順や操作上の注意などについて理解する。
5	CADを用いた模型製作方法	実習	3Dプリンターを用いた模型製作までの手順を理解する。
6	CADを用いた模型製作方法	講義	3Dプリンターを用いた模型製作までの手順を理解する。
7	CADを用いた模型製作方法	実習	3Dプリンターを用いた模型製作までの手順を理解する。
8	CADを用いた模型製作方法	実習	3Dプリンターを用いた模型製作までの手順を理解する。
9	個人トレーの製作	実習	個人トレー製作の手順を理解する。
10	個人トレーの製作	実習	個人トレー製作の手順を理解する。
11	個人トレーの製作	実習	個人トレー製作の手順を理解する。
12	個人トレーの製作	実習	個人トレー製作の手順を理解する。
13	個人トレーの製作(CAD/CAM)	実習	個人トレー製作の手順を理解する。
14	個人トレーの製作(CAD/CAM)	実習	3Dプリンターを用いた個人トレー製作の手順を理解する。
15 (6/23)	口腔内模型・個人トレー完成提出	演習	CADCAMを用いた口腔内模型及び個人トレーを完成させる。